

2019
6
月号

2019年(令和元年)6月1日発行 No.370号
公益財団法人 川崎市産業振興財団
〒212-0013 川崎市幸区堀川町66-20
☎044-548-4114
FAX 044-548-4110

産業情報 かわさき

<https://kawasaki-sanshinkaikan.jp/gyoumu/jyouhou/report.html>



ビジネス
エコー

Business Echo ⑥

株式会社マウス

開放特許活用で自社製品の夢を実現、 海外展開も果たす

「おもしろいことがしたい」。そう考えていた大手光学機器メーカーの技術者たちが独立を決意、1991年に設立したのが(株)マウス(高津区久地)です。「他社では作ることができない装置を作り出す」。それをミッションとする同社は、工業製品の生産で使用する「自動生産装置」の製造販売を手掛けています。人が行っている単純作業を、機械ができるようにする自動化生産装置に対するニーズは、人手不足を背景に年々高まっています。同社ではそうした企業のSOSに対応。「工場で作業の一部を自動化したい」というお客さんの要望を聞き、それに応じた装置を1台1台完全オーダーメイド生産しているのです。その一方で、創業当初から「自社製品を持ちたい」という夢を持ち続けており、一步一步着実に実現。金属部品用「パーツカウンター」や樹脂製部品用「樹脂ファスナーカウンター」など、同社オリジナル製品を次々と世に送り出しています。今回はそんな同社を訪問しました。

■転機になった知財マッチング

社名の「マウス」の由来は、創業者二人がねずみ年だったため、ねずみを表す英単語「Mouse(マウス)」の複数形「Mice(マウス)」に由来するそうです。創業者の一人、酒井高雄会長が在籍していたのが大手メーカーの生産設備部門。そこでは、切削や研磨といった、ものづくりの基礎技術のみならず、新製品の量産するための生産設備や、その装置の設計・製造まで、実に幅広い分野をカバーすることが求められました。この経験から、酒井会長は加工～量産まで、ものづくりに対する広範囲なノウハウを蓄積。最終的には26年間の経験



秋山 昌宏 執行役員

ビジネス エコー

Business Echo ⑥

を積んだそうです。とはいえ、ものづくりに没頭する中で「いつか自社製品を創りたい」という想いが日増しに強くなりました。そこで選んだのが仲間とともに起業する道でした。

起業後、酒井高雄会長たちがまず着手したのが、自社製品の投入でした。とはいえ、道のりは決して平坦ではありませんでした。「勝手に需要があると思込み、ろくに市場調査もしていませんでした。自己満足のものづくりで、当然うまくいきませんでした」と、酒井会長は苦笑いを浮かべ振り返ります。自分たちが「売れる」という思いとニーズとのギャップ。その溝は埋まらず、初の自社製品は失敗に終わりました。

同時に、まだ自社製品を出す時期ではないと悟った酒井会長らは、会社を存続させるために、前職時代に培った知識や経験が生かせる仕事として、今での主力事業になっている生産設備や検査装置の設計・製造を請け負う事業を始めました。しばらくすると、携帯電話の時代が到来。普及していく中で、同社は制御用部品である「水晶振動子」の自動検査装置の製作を手掛け、一気に波に乗りました。その後も、大手スイッチメーカー向け自動組み立て機や、検査装置などの単品もののオーダーメイド品の製作に当たり、取引先を順調に増やしてきました。

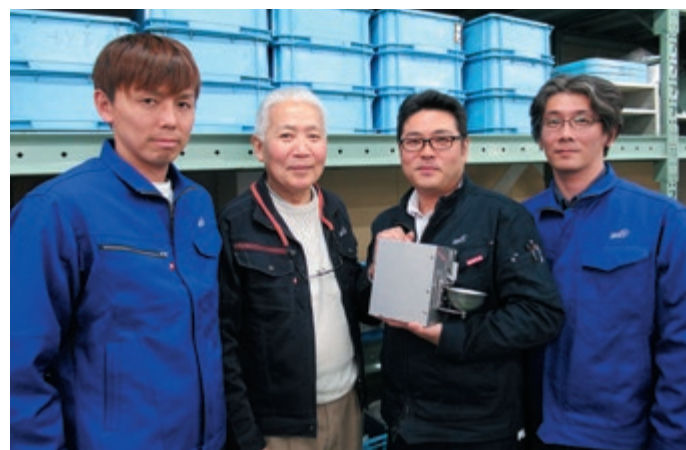
転機は2013年に訪れました。川崎市産業振興財団の知的財産マッチング担当コーディネーターが「こんなのありますよ」と、日産自動車の開放特許情報を同社に持ってきました。その情報を目にした酒井会長に再びよみがえってきたのは、忘れてかっていた「自社製品を持ちたい」という気持ちでした。日産自動車の工場で使われていたパーツカウンターの原型を見て、開放特許情報を確認。「(この技術を使って)製品化できる!」と思い、知財活用による自社製品開発を決意しました。



実際に導入した自動車の生産ラインでは、ボルトやナットなどの金属部品を、工程ごとに設定した数量と供給パターンで自動供給します。今までは、作業員が手作業で箱から所定の数を取り出していたものが、自動でできるようになりました。これにより、作業ミスの大幅削減だけでなく、ある自動車メーカーでは約20%の生産効率アップにもつながったそうです。

念願の自社製品「パーツカウンター」は、送料込みで19万8000円(税別)。14年の発売以来、今では、国内にあるほとんどの自動車メーカーの生産ラインで、同社の金属部品用パーツカウンターが使われています。次に開発した自社製品第二弾、樹脂製部品用「樹脂ファスナーカウンター」も同じくヒット。二つの自社製品は中国や韓国、スペインでも使われるようになりました。

現在、4人の少数精鋭企業ながらも、パーツカウンターの量産化を実現しています。会社の売上高に占める自社製品の割合は25%に高まっており、文字通り「装置メーカー」になりつつあります。日産自動車の開放特許活用が、同社創業の夢を実現へと導くカギとなりました。本年度の販売目標は金属部品用・樹脂部品用合わせて1000台。「自社製品開発で(事業の)第二の柱ができました」と秋山昌宏社長は話します。近く増員し、6人体制に。次なる目標は「第三の柱を育てること」だと言います。



企業データ

株式会社マイス

【住 所】 〒213-0032 川崎市高津区久地3-6-12

【電 話】 ☎044-813-7530

【U R L】 <https://www.mice1991.co.jp>

■第二の柱に育成

再び動き出した自社製品の開発構想。ただし製品化するためには「小型化」と「コストダウン」は欠かせない要素でした。「売れるものを作る」ことが何よりも重要であることは、以前の失敗から学んだことでした。小型化を追求しながら、現場で決断できる決裁不要の20万円以下に抑える。そして原価に見合ったもので機能させるためにはどうしたら良いか、試行錯誤を繰り返しました。

こうして数カ月後に完成。国内自動車メーカーに必死に売り込みをかけ、某大手自動車メーカーの担当者が、生産ラインで試用してくれることになりました。そこで担当者の協力を得て、導入するための改良を重ねました。それが現在の金属部品用「パーツカウンター」です。